

川越市立川越高等学校の学校運営方針

— 創立 100 周年を迎え、次の 100 年を展望する —

(案)

令和 8 年 月

川越市教育委員会

はじめに

少子高齢化の進行に加え、コロナ禍を契機とした劇的なDX化や生成AIの進展は、労働力やコミュニティのあり方、さらには職業観や情報の信頼性に至るまで多大な影響を及ぼしており、これまでの正解が通用しない激動の時代の中に、こどもたちは置かれています。

国では、次期学習指導要領の改訂や「知の総和」向上の答申を通じ、教育の質・規模・アクセスの最適化を進めています。これにより、こどもたちが多様な他者と協働し、課題を発見・解決する力を育むことを目指しており、高等学校教育も社会の変化に対応した「知の拠点」として再定義が求められています。

こうした中、川越市立川越高等学校は、大正15年の創立以来、時代の流れを的確に読み変化しつつ「実学教育」を基盤とした教育活動を展開することで、県下で確固たる地位を築いてきました。そして令和8年度には、創立100周年という歴史的な大きな節目を迎えようとしています。

次の100年を見据えたさらなる教育の充実を図り、時代の要請と市民の期待に応えるため、令和5年3月に川越市教育委員会教育長から川越市立川越高等学校教育審議会に対し、学校運営の方針について検討するよう諮問がなされました。これを受け「川越市立川越高等学校の学校運営の方針について（答申）」が、令和7年11月に川越市教育委員会へ提出されました。

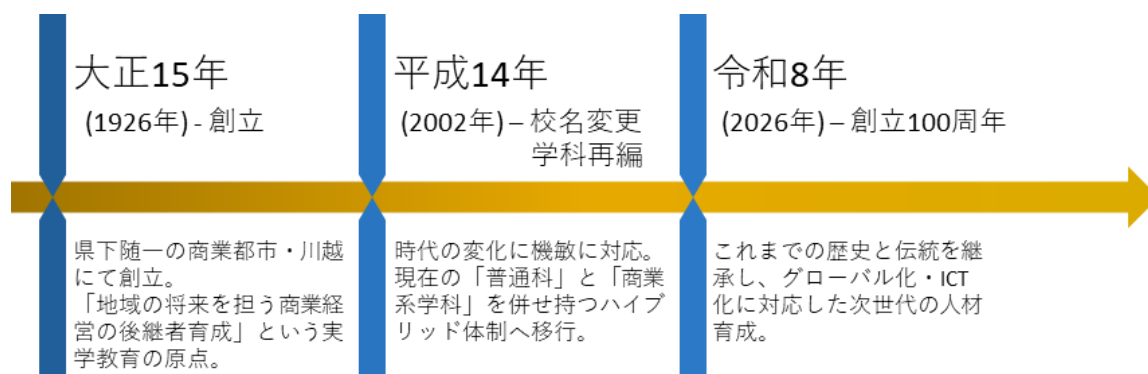
本方針は、この100周年を次の100年を見据えた新たな起点と位置づけ、川越市立川越高等学校教育審議会からの答申を踏まえて作成したものです。本方針のもと市民、生徒、保護者からの期待に応える学校運営を行ってまいります。

1 建学の主旨とこれまでの役割

本校は大正15年、当時県下随一の商業都市であった川越において、地元子弟に実践的な商業教育を施し、地域の将来を担う商業経営の後継者を育成することを目的に創立されました。創立以来、時代の激しい変遷や社会情勢の変化に機敏に対応しながら発展を遂げ、平成14年の校名変更、学科再編を経て普通科と商業系学科を併せ持つ現在の体制となっても、本市唯一の市立高校として「心身ともに健全で進取の気性に富む人物を養成、個性を伸ばすとともに協調的精神を養成、職業を通じて社会に貢献しようとする人物の育成」という教育目標をその役割の中核に据えています。

こうした教育目標のもと、県内唯一である全学年少人数学級の利点を活かして大学進学実績を伸ばし続ける普通科教育と、簿記や情報処理等の検定試験において県内トップレベルの実績を誇るスペシャリストの養成のための商業教育との両輪を通じて、生徒一人ひとりの個性を伸ばし多様な進路実現を支援してきています。さらに、全国レベルで活躍する部活動を通じて「川越市」の名を広く発信する広報的役割を担うとともに、自治体、企業、大学、小中学校との連携を深めることで、地域課題の解決に挑む探究学習や社会貢献活動を推進し、地域社会の発展に寄与する「本市が設置する市立高校」としての使命を果たしています。

創立100周年という大きな節目を迎える現在、本校はこれまでの輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、グローバル化やICT活用といった新たな時代の要請に応える質の高い教育を展開し、次代を担う人材を育むことで市民の期待に応え続けるという極めて重要な社会的責任を負っています。



2 本校を取り巻く環境と課題

本校は、令和8年に創立100周年という大きな節目を迎える一方で、少子化の進行や大学進学率の向上、さらには私立高校の授業料無償化や県立高校の統廃合といった激しい競争環境に置かれており、普通科が県内屈指の高い志願倍率を維持する一方で、商業系学科を志望する生徒の減少が顕著になるなど、時代の変化に伴う学科間の志願動向の差が生じているほか市内生の相対的な減少も課題となっています。

このような状況下において、創立以来の伝統である「実学教育」を現代の要請に合わせて再定義し、商業系学科を本校の強みをさらに発展させるものとすることや、地域企業と連携して地域課題の解決に挑む「探究学習」の充実を図ることで、市立高校としての独自の価値（競争優位性）を確立することが求められています。さらには、大学進学ニーズの高まりに応えるために大学受験における一般入試と推薦入試の双方に対応できるきめ細かな進学指導の必要性などを踏まえ、変化の激しい社会を生き抜く資質・能力を育む「本市が設置する市立高校」としての役割をより強固なものにするための多角的な改革が求められます。

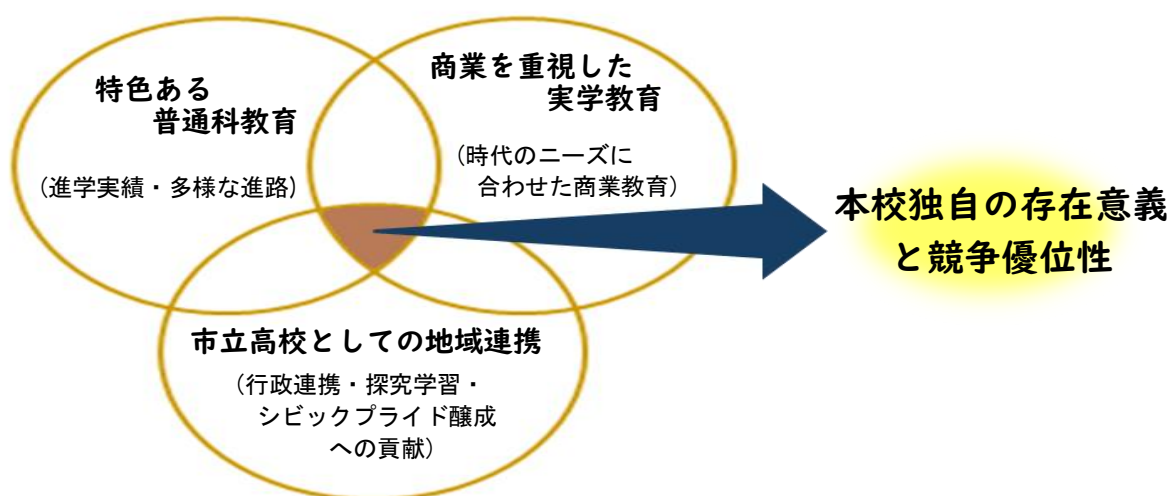
3 新たな使命

大正15年の創立以来、商都川越の発展を支える実学教育の伝統を脈々と受け継いできた歩みを基盤としつつ、令和8年に迎える創立100周年という歴史的な節目を次の100年へ向けた新たな起点と位置づけ、グローバル化の加速やICT・AI技術の劇的な進展といった急激に変化する社会情勢や多様化する市民の期待に的確に対応していくことが求められます。こうした期待に応えるため本校の新たな使命は、「特色ある普通科教育」と「商業を重視した実学教育」が持つ教育的価値を現代的な視点から見直すことで、本市唯一の市立高校としての独自の存在意義や他校にはない強力な競争優位性を確立し、教育目標を達成することにあります。

さらには、少子化が進む中、優秀な人材の確保は地域の活性化に不可欠であり、まちづくりを進める上で若者の意見を把握し施策に取り入れていくことは

ますます重要となっていくと考えられます。このような中、本市が行政や企業との連携窓口となる市立高校を有していることは大きなアドバンテージとなります。こうした視点から本校が行政、企業や大学、小中学校等との連携を強化し地域課題の解決に挑む探究活動を行い、広範な社会貢献を推進することで地域社会の発展に寄与していくことも重要な使命です。さらには、各種部活動が盛んな本校は生徒の活躍により本市の名を全国に広めるとともにシビックプライドの醸成にも大きな役割を果たすことが期待されていると言えます。

市立高校としての独自価値の三要素



4 スクール・ミッション

次の 100 年を見据え、これらの市立高校としての独自価値の三要素と本校独自の存在意義、競争優位性を踏まえ、スクール・ミッションを次のとおりとします。

高等普通教育と商業に関する専門教育を行う川越市立の高等学校として、
生徒の個性を伸ばし、地域に根ざした協調的精神を育む
実践的な教育活動を通して、
確かな学力や高い専門性を備え、
心身ともに健全で進取の気性に富み、
職業を通じて社会に貢献しようとする人物を育成します。

5 本校の4つの将来像

ミッションを実現するための
「4つの将来像」



I 【 魅力的な教育 】 特色ある普通科教育と商業を重視した実学教育を行う学校

伝統継承と多様な進路実現に向け、普通科での授業の充実、商業教育の充実や英語力の向上、商業系学科での資格取得の充実を図ります。また、先の見えない社会を生き抜く人財を育成するため、本校の特色を生かした商業系学科の改編、教育課程の改善や探究学習の取り組みの深化、ICT活用能力の育成等と併せて、きめ細かな進路指導、活発な部活動支援、さらには生徒の希望進路の実現のため、大学等への進学や就職等に向けて支援する体制を構築します。

II 【 選ばれる学校 】 入試改革と生徒募集強化により受検生から選ばれる学校

本校への入学意欲等を重視する特色選抜の導入や川越市在住の中学生を対象とする地域特別選抜の継続といった取組を進めます。また、市内小中学校との連携による魅力発信やニーズを捉えた体験会の実施、さらにはスクール・ミッションの周知や組織的な募集活動を強力に推進することで、受検生や保護者から信頼され、選ばれる学校としての地位を確立していきます。

Ⅲ 【開かれた学校】 地域社会や大学等と連携し市民の期待に応える開かれた学校

本市をはじめとする近隣自治体と連携し、イベントへの参加や、小中学校や市立特別支援学校との交流を推進するとともに、地域社会や大学等との連携を進めます。大学との連携による出張講義や、地元企業・商店街と協力した職業教育を実施するほか、探究学習を通じて地域課題の解決に挑む授業を展開するなど、市立高校の役割を意識した地域社会と相互に高め合う「開かれた学校」の役割を強化し、市民からの期待に応えます。

Ⅳ 【支える基盤】 充実した学校生活を支える持続可能な学校経営

生徒が主体的に学校行事に関わる仕組みづくりにより、生徒の自主性と協調性を育むとともに、生徒がより安心して学校生活を送ることができるよう、各種支援・相談体制を整えます。また、本市姉妹都市との交流により国際的視野などを身に着ける取組を進めます。教職員の働き方改革を進め、教育活動の質を高めるとともに生徒指導の充実をはかることで充実した学生生活を支えます。さらに、地域ニーズに応える中高一貫校の検討を進めるなど、時代の変化に対応した持続可能な学校経営の基盤を構築します。

6 本市とともに発展する市立高校



4つの将来像は単独の施策ではなく、学校・市民・地域が一体となり、互いの価値を高め続ける「好循環のサイクル」こそが、次の100年への原動力です